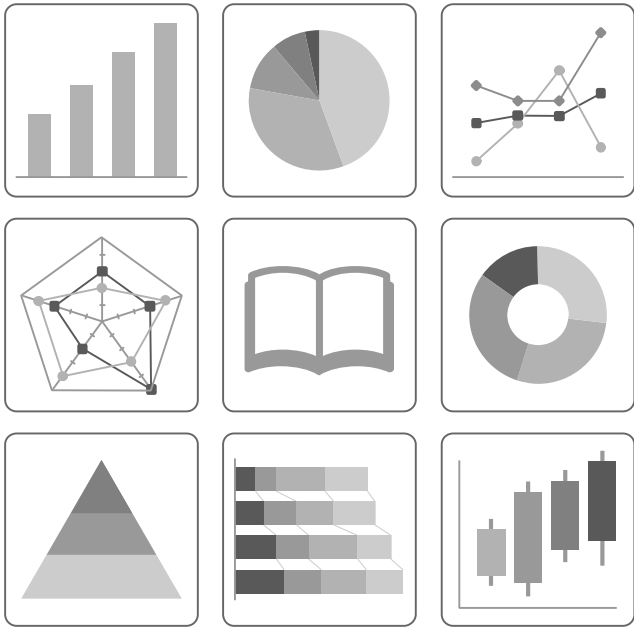


# 葛飾区 出産・子育てに関するアンケート調査 調査結果報告書



令和4年11月

葛 飾 区

# 目次

<b>I 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1 調査の目的 .....	1
2 調査対象 .....	1
3 調査期間 .....	1
4 調査方法 .....	1
5 回収状況 .....	1
6 調査結果の表示方法 .....	1
<b>II 調査結果</b> .....	<b>2</b>
設問1 現在、お子さんはいらっしゃいますか。 .....	2
設問2 今後、子どもを持ちたいと思いますか。 .....	2
設問3 子どもを持ちたいとお考えの方へ、お伺いします。現在の状況に近いもの をお選びください。 .....	3
設問4 子どもを持ちたいと考えているが、事情により産むのを控えている方へお伺いし ます。なぜ、産み控えていますか。 .....	4
設問5 子どもを持つことについて、持ちたくない・今は考えていない(わからない) という方へお伺いします。なぜ、そう考えますか。 .....	8
設問6 区で実施している事業に関わらず、今後、利用してみたいサポート・サービ スはありますか。具体的に教えてください。 .....	11
設問7 全国的な課題となっている少子化に対応するためには、区としてどんなサー ビスが必要であると思いますか。 .....	20
<b>III 調査結果の分析</b> .....	<b>35</b>

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

近年の大幅な出生数の低下を受け、今後、区で行う少子化対策を検討するための基礎資料として、調査を実施するものです。

## 2 調査対象

葛飾区在住で、現在子育て中の世帯、またはこれから子育てをする可能性のある世帯の世帯主の方

## 3 調査期間

令和4年6月28日から令和4年7月20日

## 4 調査方法

インターネットによる回答

## 5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
区民	3,000通	1,381通	46.0%

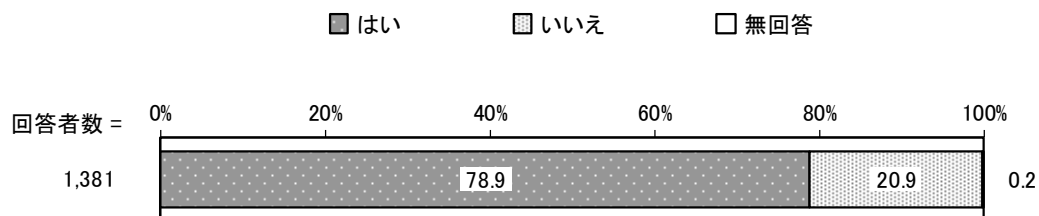
## 6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）

## II 調査結果

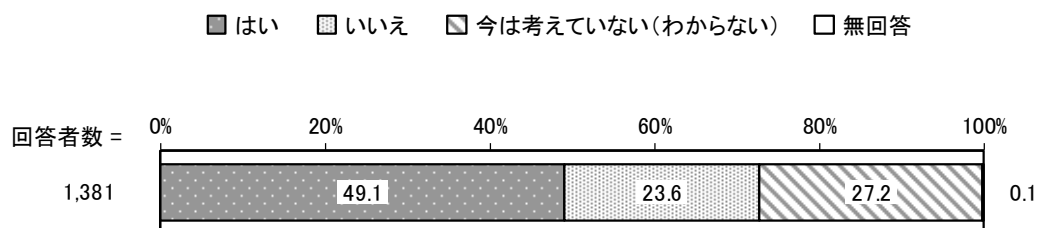
設問1 現在、お子さんはいらっしゃいますか（妊娠中含む）。

「はい」の割合が78.9%、「いいえ」の割合が20.9%となっています。



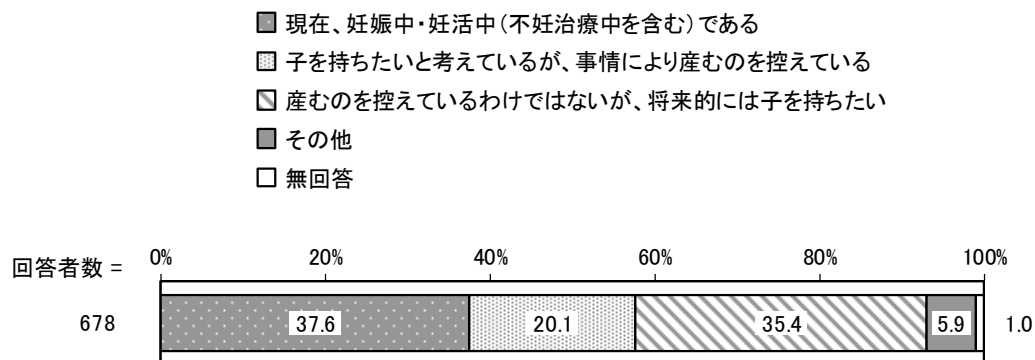
設問2 今後、子どもを持ちたいと思いますか（すでにお子さんがある場合も含む）。

「はい」の割合が49.1%と最も高く、次いで「今は考えていない(わからない)」の割合が27.2%、「いいえ」の割合が23.6%となっています。



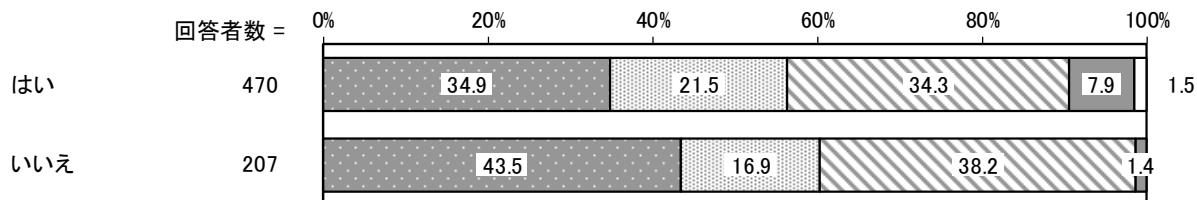
**設問3 子どもを持ちたいとお考えの方へ、お伺いします。**  
**現在の状況に近いものをお選びください。**

「現在、妊娠中・妊活中（不妊治療中を含む）である」の割合が37.6%と最も高く、次いで「産むのを控えているわけではないが、将来的には子を持ちたい」の割合が35.4%、「子を持ちたいと考えているが、事情により産むのを控えている」の割合が20.1%となっています。



**【子どもの有無別】**

子どもの有無別で見ると、はいに比べ、いいえで「現在、妊娠中・妊活中（不妊治療中を含む）である」の割合が高くなっています。

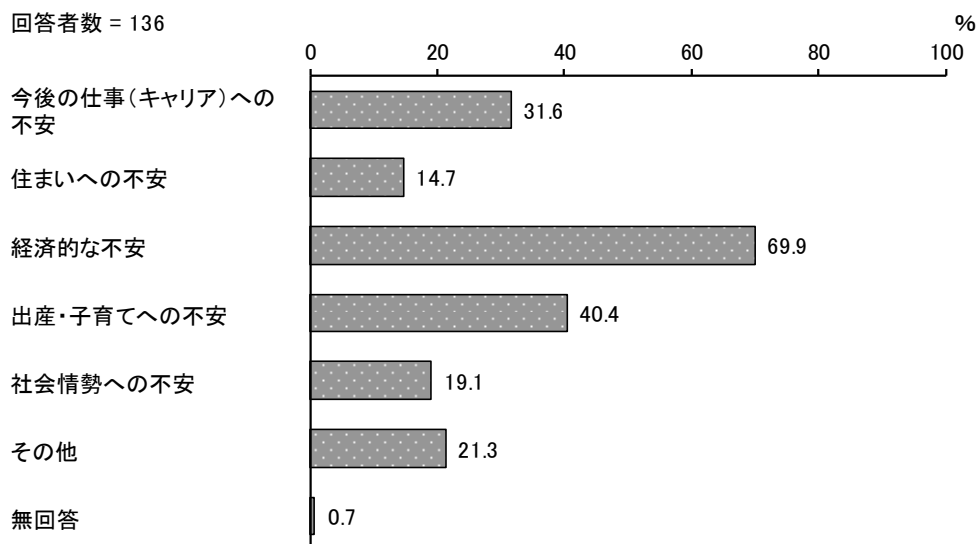


**【その他の主な意見】**

- ・ 出産を考えている。(8件)
- ・ すでに子どもがいる。(7件)
- ・ 出産して間もない。(7件)
- ・ 子どもはほしいが、金銭面で不安。(6件)
- ・ 病気のため難しい。(3件)
- ・ パートナーがいない。(2件)
- ・ 現在はシングルマザーだが、将来的には再婚して子を持ちたい。
- ・ 三人出産を経験していますが、今後また授かることがあるなら産みたいと思う。

**設問4 子を持ちたいと考えているが、事情により産むのを控えている方へお伺いします。なぜ、産み控えていますか。【複数回答可】**

「経済的な不安」の割合が69.9%と最も高く、次いで「出産・子育てへの不安」の割合が40.4%、「今後の仕事（キャリア）への不安」の割合が31.6%となっています。



**【子どもの有無別】**

子どもの有無別で見ると、はいに比べ、いいえで「今後の仕事（キャリア）への不安」の割合が高くなっています。一方、いいえに比べ、はいで「経済的な不安」「出産・子育てへの不安」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	今後の仕事(キャリア)への不安	住まいへの不安	経済的な不安	出産・子育てへの不安	社会情勢への不安	その他	無回答
はい	101	27.7	13.9	71.3	44.6	17.8	20.8	1.0
いいえ	35	42.9	17.1	65.7	28.6	22.9	22.9	—

### 「今後の仕事（キャリア）への不安」を選んだ理由（主なもの）

- ・ 仕事と子育ての両立が難しいと感じている。（10件）
- ・ 仕事復帰が遅れる。仕事に復帰できるかわからない。（6件）
- ・ 収入の減少により子育てへの影響を考えている。（4件）
- ・ 仕事の経験・キャリアが分断されてしまう。（3件）
- ・ 転職したばかりなので育休が使えない。（2件）
- ・ 集中して取組みたい課題があるため、自己研鑽等の時間がなくなる。（2件）
- ・ 育児休暇から復帰したばかりである。
- ・ 職場で今後数年間産休に入りそうな人が複数人いる。
- ・ 仕事を休んだときの代わりの人材が見つかるか不透明。
- ・ 子どもはほしいが復職後の職場の当たりが強くて、また同じ思いはしたくない。
- ・ 仕事に復帰したら仕事のやりがいを感じて、また産休・育休に入ってしまうのがもったいないと感じてしまう。また、つわりや身重な身体で仕事をするに不安がある。
- ・ 子どもを産み育てるとなると妻である自分の勤務時間の短縮は免れないと考えており、今の仕事から大きく変わってしまうのではないかと不安。

### 「住まいへの不安」を選んだ理由（主なもの）

- ・ 現在住んでいるところでは部屋が足りない、狭い。（7件）
- ・ インフレによる家賃の値上げなど。
- ・ 持ち家ではなく、家賃が13万円弱と高すぎる。
- ・ 一軒家の購入を検討しているが、予算と子育てに適した場所の選定などがまだできていない。
- ・ 賃貸で子育てを行った際に修繕費などの面で不安。家を建てる際に価格高騰のため現在の収入＋今後の収入で払っていきけるか不安。
- ・ 子どもが少ないところに住んでいるので、少しの騒音でも注意されないか不安。
- ・ 家族が増えると狭くなるが、広い家は賃貸、新築購入、中古いずれも高額で、固定費増加に不安がある。

### 「経済的な不安」を選んだ理由（主なもの）

- ・ 子育てにお金がかかる。（24件）
- ・ 給料が低いので、金銭的に余裕がない。（22件）
- ・ 収入が減るので生活に不安がある。（7件）
- ・ 教育にお金がかかる。（3件）
- ・ 妊婦健診から出産まで保険適用外なので費用がかかる。（2件）
- ・ 将来的な家計の負担が予測できない。
- ・ 妊娠・出産に備えた蓄えがない。
- ・ 高齢のため子どもを三人も養えるのか不安。
- ・ 第一子が産まれて間もない。
- ・ 消費税以外の税金、年金等の控除が高すぎる。
- ・ 出産一時金ではお金がまかなえないし、育てるにもお金がかかる。
- ・ 転職したばかりで、育休手当をもらえない。
- ・ 働いたら働いた分所得制限で補助や助成が受けられないので産む気にならない。

- ・ 出産費用や産まれてからが不安。今パートなので産休・育休がもらえないかもしれないので不安。
- ・ 一人の子を養う方が経済的には余裕があり、二人目を迷っている。
- ・ コロナの影響で仕事がなくなり、パートと手当てでやりくりしているため収入が安定しないので不安。
- ・ 塾や習い事をしたいと言われたとき、叶えてあげられないのが心苦しい。
- ・ 人工授精を過去に何度も試みたがダメで、体外受精を勧められたが高額であった。
- ・ 数年後、経済的に余裕があれば三人目を考えています。
- ・ 自分たちの生活をするので手一杯で、子どもを産んだとして育てられるのか、子どもに貧困による苦勞をかけないかが不安。
- ・ 子どもの体調不良、自分の体調不良で有休がすぐになくなり、なくなったら欠勤にするしかないから稼げなくて不安。
- ・ 家のローンもあるため、もう一人ほしいがためらう。
- ・ 税金など取られる額が増えて、円安、物価の高騰にとっても不安になる。将来的に子どもが増えて、一人一人がやりたいこと、行きたい学校に行けるように叶えてあげられるか自信がない。
- ・ 老後の貯金、毎月の生活費などを考えても、我が家は現状一人っ子の子どもでさえ学費が高い大学までは出してあげられないと思う。
- ・ 日本は海外の先進国と比べて平均年収が低く、その上現在は円安とかなり今後が不安。低所得者への補助は比較的多いが、中間層への補助がないと感じる。

#### 「出産、子育てへの不安」を選んだ理由（主なもの）

- ・ 両親や身内が近くにいないので、何かあったときに助けてもらえないのが不安。（12件）
- ・ 子育てと仕事の両立ができるのか不安。（8件）
- ・ 一人育てるだけでも十分大変。（5件）
- ・ 妊娠による妻の身体への負担。（3件）
- ・ 夫の協力体制に不安がある（ワンオペ育児）。（2件）
- ・ 漠然とした不安。
- ・ 子どもを抱えながらの妊娠・出産を乗り越えられる気がしない。
- ・ 年齢的なものによる体力や健康面での不安。
- ・ 急病のときに、夜間休日にやっている病院があまりない。即日登録可能な一時保育がない。
- ・ 妊娠・出産においての費用が高額。産んだ後も産後うつが不安だし、子ども二人を自分一人で世話して孤立しそう。
- ・ 今後どの地域で子育てするか悩んでいる。
- ・ 第二子を妊娠するときはハイリスク妊婦となり、職場にまた迷惑をかけて、医療費も高額になるかもしれないと思うと、なかなか二人目を考えられない。
- ・ 上の子がもう少し自立できる一年後、二年後にならないと育児に手が回らない。
- ・ コロナ禍で何をすることも制限がかかる状況が続いている。

#### 「社会情勢への不安」を選んだ理由（主なもの）

- ・ コロナ禍による医療体制、仕事、健康面等が不安。（6件）
- ・ 経済状況での不安。
- ・ なんだかんだ子持ちに優しくない会社が多い。



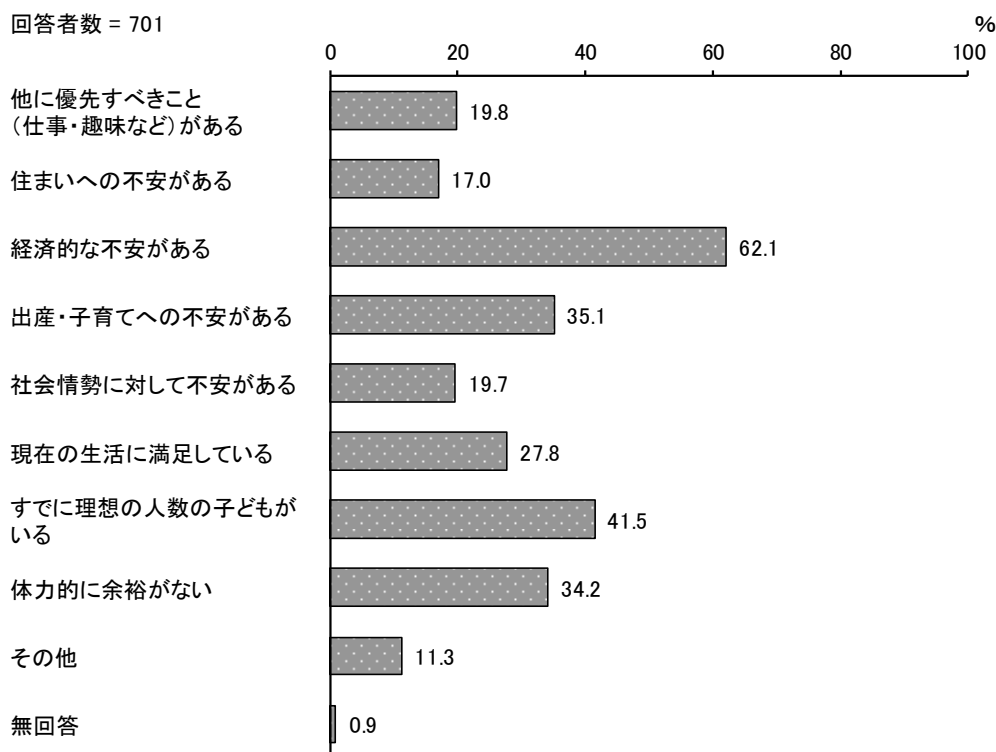
- ・ 今の社会情勢で、産んだ子どもが幸せになれるのか。
- ・ 日本の将来が不安。子どもの将来が不安。
- ・ 円安や物価高騰、年収の変動なし。将来に不安しか感じられない。
- ・ 子どもたちに日本の未来を背負わせるのは不安がある。戦争や感染症も不安。
- ・ 出産後初の仕事で保育園に入れるも、子どもの発熱や感染症で初めての仕事がほとんどできず、辞めざるを得ない状況になってしまう。職場の理解がない。
- ・ 子どもの教育費がかかる時代だと感じる。また、ニュースを見ていると子どもが可哀想な事件が多い。どこにいても治安の不安もある。

### 「その他」を選んだ理由（主なもの）

- ・ 結婚式、新婚旅行をしてから出産を考えているため。（6件）
- ・ 出産したばかりのため。（3件）
- ・ 病気のため。（3件）
- ・ 帝王切開、子宮破裂など前回の出産の影響があるため。（2件）
- ・ パートナーにその気がない。
- ・ 上の子との年齢差。
- ・ ひとり親のため。里親にもなりたいが、経済面、仕事面で厳しい。
- ・ 年齢的に産まれてくる子に何かあったらと考えてしまう。
- ・ 不妊治療しなければならない可能性が高く、仕事にも復帰したばかりですので、すぐに治療を開始するのは難しいです。
- ・ 物価や賃料が高い。また、保育園や小学校の園庭が郊外に比べて狭い。

**設問5 子どもを持つことについて、持ちたくない・今は考えていない（わからない）という方へお伺いします。なぜ、そう考えますか。【複数回答可】**

「経済的な不安がある」の割合が62.1%と最も高く、次いで「すでに理想の人数の子どもがいる」の割合が41.5%、「出産・子育てへの不安がある」の割合が35.1%となっています。



**【子どもの有無別】**

子どもの有無別で見ると、はいに比べ、いいえで「他に優先すべきこと（仕事・趣味など）がある」「出産・子育てへの不安がある」「社会情勢に対して不安がある」の割合が高くなっています。一方、いいえに比べ、はいで「すでに理想の人数の子どもがいる」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	他に優先すべきこと（仕事・趣味など）がある	住まいへの不安がある	経済的な不安がある	出産・子育てへの不安がある	社会情勢に対して不安がある	現在の生活に満足している	すでに理想の人数の子どもがいる	体力的に余裕がない	その他	無回答
はい	619	15.5	16.3	62.2	32.6	17.1	27.0	46.8	35.7	9.4	1.0
いいえ	82	52.4	22.0	61.0	53.7	39.0	34.1	1.2	23.2	25.6	—

### 【子どもの有無別・今後の子どもを持ちたい意向別】

子どもの有無別・今後の子どもを持ちたい意向別で見ると、他に比べ、子どもがいる・今後子どもを持ちたくないで「体力的に余裕がない」の割合が、子どもがいない・今後子どもを持ちたくないで「社会情勢に対して不安がある」の割合が高くなっています。また、子どもがいない・今は考えていないで「他に優先すべきこと（仕事・趣味など）がある」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	他に優先すべきこと（仕事・趣味など）がある	住まいへの不安がある	経済的な不安がある	出産・子育てへの不安がある	社会情勢に対して不安がある	現在の生活に満足している	すでに理想の人数の子どもがいる	体力的に余裕がない	その他	無回答
子どもがいる・今後子どもを持ちたくない	297	14.1	15.2	59.9	29.0	17.8	29.6	59.6	41.1	9.4	0.7
子どもがいる・今は考えていない	322	16.8	17.4	64.3	36.0	16.5	24.5	35.1	30.7	9.3	1.2
子どもがいない・今後子どもを持ちたくない	29	44.8	24.1	58.6	41.4	44.8	37.9	3.4	17.2	34.5	—
子どもがいない・今は考えていない	53	56.6	20.8	62.3	60.4	35.8	32.1	—	26.4	20.8	—

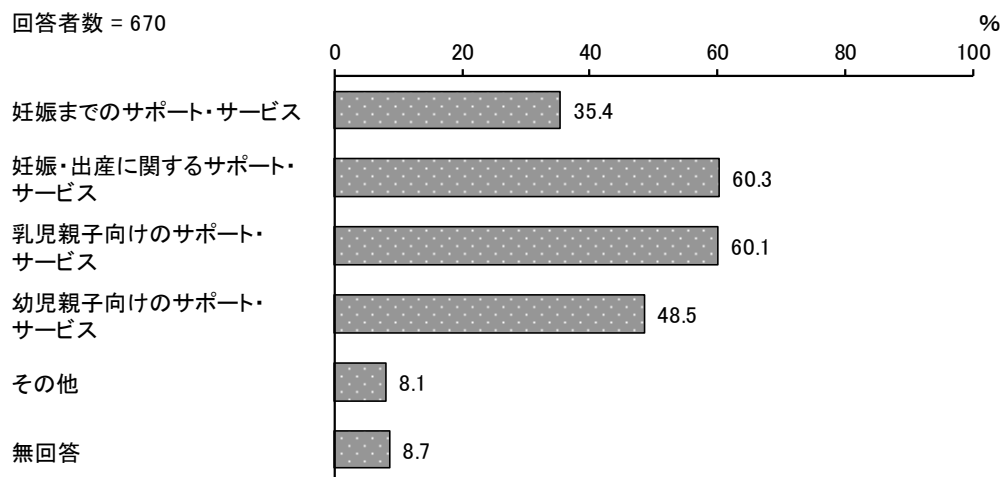
### 【その他意見】（主なもの）

- ・ 高齢のため。（7件）
- ・ 離婚しているため。（6件）
- ・ 病気のため、医師から止められているため。（5件）
- ・ 現在、子育てが大変なため。（5件）
- ・ 妊娠できる可能性が低いため。（5件）
- ・ 近くに助けてもらえる親類がいないため。（4件）
- ・ 経済的な不安のため。（4件）
- ・ 出産の痛みを味わいたくないため。（3件）
- ・ 自分の時間を大切にしたいため。（3件）
- ・ ワンオペ育児が想定されるため。（2件）
- ・ 国の子育て世帯への経済的支援等について不足していると感じるため。（2件）
- ・ 少子高齢化により産まれた子ども自身に負担がかかるため。（2件）
- ・ 産後クライシスで夫婦不仲のため。
- ・ 第一子へ愛情を注ぎたいため。
- ・ 夫婦の時間を大切にしたいため。
- ・ 上の子の小学校受験準備と重なるため。
- ・ 子どもに病気や発達の遅れがあり、その子の看護や将来が心配なため。
- ・ 育児休暇は共働きかつ、一切取得不可能だから出産に立ち会えるかさえ不明なため。

- ・ 子ども以前に親兄弟を含む今の家族の安全、健康、経済の安定を維持するので精一杯なため。
- ・ 困ったときに預けるところがなく、あっても事前予約が必要で、急病時など区の施策では補うことが難しかったため。
- ・ 子どもを産み育てやすい社会だと思えないため。子ども自身や母親に対する社会的な空気感、風当たり、法律が悪すぎる。経済的な支援だけでは踏み切れない。
- ・ 家賃負担が特に大きいです。家族四人以上となると3部屋以上が必要になり、そうなるの家賃負担が増えます。
- ・ 我が家にとっての標準的な教育投資や生活の保障、また、私たち夫婦の老後の貯蓄や楽しみにかかるお金、これらを考えるとあと一人は諦めざるを得ません。
- ・ 子どもをつくることによる精神的及び身体的負担に勝るメリットがない。二人でなら生きていけるが、三人以上で豊かに暮らせる金銭的余裕はない。
- ・ 東京都で出産する場合平均 60~70 万円産婦人科に支払います。助成金で 42 万円ですが、出産するだけで 30 万円ほどが自費になります。その他、妊婦健診にも都度 1,000 円以上かかります。費用がかかりすぎるのに産みたいと思えません。

**設問6 区で実施している事業に関わらず、今後、利用してみたいサポート・サービスはありますか。具体的に教えてください。【複数回答可】**

「妊娠・出産に関するサポート・サービス」の割合が60.3%と最も高く、次いで「乳児親子向けのサポート・サービス」の割合が60.1%、「幼児親子向けのサポート・サービス」の割合が48.5%となっています。



**【子どもの有無別】**

子どもの有無別で見ると、はいに比べ、いいえで「妊娠までのサポート・サービス」「妊娠・出産に関するサポート・サービス」「乳児親子向けのサポート・サービス」「幼児親子向けのサポート・サービス」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	妊娠までのサポート・サービス	妊娠・出産に関するサポート・サービス	乳児親子向けのサポート・サービス	幼児親子向けのサポート・サービス	その他	無回答
はい	462	25.5	51.1	56.1	45.5	9.1	10.8
いいえ	207	57.5	80.7	69.6	55.6	5.8	3.9

### 【現在の状況別】

現在の状況別で見ると、他に比べ、現在、妊娠中・妊活中（不妊治療中を含む）であるで「妊娠までのサポート・サービス」の割合が、産むのを控えているわけではないが、将来的には子を持ちたいで「幼児親子向けのサポート・サービス」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	妊娠までのサポート・サービス	妊娠・出産に関するサポート・サービス	乳児親子向けのサポート・サービス	幼児親子向けのサポート・サービス	その他	無回答
現在、妊娠中・妊活中(不妊治療中を含む)である	255	43.9	69.0	64.3	48.6	4.7	7.1
子を持ちたいと考えているが、事情により産むのを控えている	135	23.7	43.0	45.9	40.7	19.3	13.3
産むのを控えているわけではないが、将来的には子を持ちたい	240	35.4	65.4	66.7	55.0	2.9	5.8
その他	40	20.0	32.5	42.5	35.0	22.5	20.0

### 【産み控えている理由別】

産み控えている理由別で見ると、他に比べ、住まいへの不安で「妊娠までのサポート・サービス」「妊娠・出産に関するサポート・サービス」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	妊娠までのサポート・サービス	妊娠・出産に関するサポート・サービス	乳児親子向けのサポート・サービス	幼児親子向けのサポート・サービス	その他	無回答
今後の仕事(キャリア)への不安	43	27.9	51.2	60.5	41.9	11.6	11.6
住まいへの不安	20	40.0	65.0	60.0	55.0	10.0	15.0
経済的な不安	95	23.2	36.8	43.2	42.1	17.9	17.9
出産・子育てへの不安	55	23.6	40.0	45.5	41.8	14.5	10.9
社会情勢への不安	26	34.6	46.2	53.8	50.0	23.1	7.7
その他	29	34.5	58.6	48.3	44.8	24.1	3.4

## 【子どもの有無別・今後の子どもを持ちたい意向別】

子どもの有無別・今後の子どもを持ちたい意向別で見ると、子どもがいる・今後子どもを持ちたいに比べ、子どもがいない・今後子どもを持ちたいで「妊娠までのサポート・サービス」「妊娠・出産に関するサポート・サービス」「乳児親子向けのサポート・サービス」「幼児親子向けのサポート・サービス」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	妊娠までのサポ ート・サ ービス	妊 娠・出 産に 関 する サ ポ ー ト・ サ ー ビ ス	乳 児 親 子 向 け の サ ポ ー ト・ サ ー ビ ス	幼 児 親 子 向 け の サ ポ ー ト・ サ ー ビ ス	そ の 他	無 回 答
子どもがいる・今後子どもを持ちたい	462	25.5	51.1	56.1	45.5	9.1	10.8
子どもがいない・今後子どもを持ちたい	207	57.5	80.7	69.6	55.6	5.8	3.9

### ●妊娠までのサポート・サービス

- ・ 不妊検査、治療に関するサポート。(45件)
  - ・ 妊活についての情報、相談窓口、補助制度等の案内。(29件)
  - ・ 補助金、給付金などの経済的支援。(5件)
  - ・ 家事育児サポート、家事代行サービス。(5件)
  - ・ 妊婦健診の助成、無償化。(4件)
  - ・ 病院紹介、病院一覧等、医療機関に関する情報提供。(4件)
  - ・ 妊婦健診や体調不良時のタクシー代補助。(3件)
  - ・ 父親・母親学級。(3件)
  - ・ ゆりかご面接。(2件)
  - ・ マタニティヨガ、妊婦マッサージ等。(2件)
  - ・ マタニティパス。(2件)
  - ・ 上の子の保育園の送迎。(2件)
  - ・ 休業補償等金銭サポート。(2件)
  - ・ 何のサポートがあるかわからない。(7件)
- (その他の主な意見)
- ・ 妊活中や不妊、流産後のメンタルサポートがあれば嬉しい。
  - ・ 妊娠しやすい身体づくりなど。
  - ・ 母体の健康管理。
  - ・ 高年齢出産のデメリット等の教材。夫婦ともに仕事をしているとつい後回しになりがち。
  - ・ 妊活に入る前に相談ができる場所。良いことばかりではなく、メリット・デメリット含むイメージができる感じに。こんなつもりじゃなかったとの虐待の防止にもなる。
  - ・ 35歳以上で妊活・不妊治療している方のお話し会のようなもの。
  - ・ 妊婦・新生児コミュニティなど。
  - ・ 妊娠しやすい身体にするために病院で行われるセミナーなどに参加したい。

- ・ 産婦人科医などによる妊娠までの説明会。生活習慣や、これまでの経験談、実体験など不安がなくなるようなお話や出産までの流れを聞いてみたい。
- ・ なかなか授かれずにいるとき、誰かに話を聞いてもらいたいけど、話せなかったり辛い気持ちを一人で抱え込むことが多いので、そんな場があったらいいなと思う。
- ・ ブライダルチェックの費用援助。
- ・ 出産後の保育園の情報などの分かりやすいインフォメーション、説明会。
- ・ 通院費などの負担軽減。
- ・ 先進医療の補助。
- ・ 葛飾区で入籍または住民届けが出ている夫婦で、希望及び複数会の面談を通してからの排卵チェッカーの無料配布。
- ・ マタニティグッズ、新生児用グッズ費用の助成金。
- ・ 子どものものを揃えたりする際に何かと割引などがあると嬉しい。
- ・ 妊娠中、通勤電車で座れる。
- ・ 仕事が忙しかったり職場の人間関係でストレスを感じ、生理不順になってしまう。共働きでないと子どもを育てていけない世の中のため、不安すぎて何度も産みたいと思っただけで無理だと思ってしまう。これらのことを「大丈夫だよ」「こうすれば良いのでは」などと提案があったり、社会全体でのサポートがあれば助かるなと思います。
- ・ 産まれる前に必要な手続きを母子健康手帳受領直後にも教えてもらえるが、そこですべてを伝えるのではなく、予定日6か月前などの、一定期間経過後にも教えてもらえるようにしてほしい。
- ・ これから妊娠・出産・育児をしていくにあたって、家計のやりくりなどの面でマネーアドバイスを受けられる体制があれば受けたい。
- ・ 日本は婚外子の割合が海外に比べて少ないので、妊娠までをサポートするよりも結婚したい人を増やすべきです。「葛飾区で」結婚して持ち家やマンションを購入するまでの流れに何らかのインセンティブがあれば良いと思います。

### ●妊娠・出産に関するサポート・サービス

- ・ 出産育児一時金の増額等出産費用補助。(41件)
- ・ 産前・産後のケア。(乳房ケア、宿泊ケア等)。(30件)
- ・ 妊婦健診費用助成。(26件)
- ・ 補助金、給付金などの経済的支援。(24件)
- ・ 父親・母親教室、マタニティサロン等。(19件)
- ・ 妊娠中のタクシー代等移動費用補助。(16件)
- ・ 妊娠・出産に関していつでも相談できる窓口や情報の提供。(15件)
- ・ 病院紹介、病院一覧等、医療機関に関する情報提供。(14件)
- ・ 産前・産後に使えるサービスの案内。(13件)
- ・ 育児用品の支給・助成(おむつ代、ミルク代等)。(10件)
- ・ 家事育児サポート、家事代行サービス。(9件)
- ・ 出産祝い金。(7件)
- ・ 情報共有できる場、コミュニティづくりの支援。(6件)
- ・ 上の子の面倒や、保育園の送り迎えのサポート。(6件)
- ・ 妊娠期の治療費助成。(5件)
- ・ マタニティパス。(5件)



- ・ サービスや補助制度の周知。(4件)
- ・ ゆりかご面接。(3件)
- ・ 産院の増加。(2件)
- ・ 保育園情報などの提供、説明会。(2件)
- ・ WEB などによる手続きの簡略化・効率化。(2件)
- ・ 何のサポートがあるかわからない。(5件)

(その他の主な意見)

- ・ 出産間近や産後直後の買い物代行、食料品・生活必需品の宅配サービス。
- ・ 出産後に宿泊の母子センターの日数の延長とそれに伴う補助金制度。
- ・ 出産時の入院の時、上に小さい子どもがいると夜はママと離れなければならないので大変。ママとパパと子どもと新生児と一緒に泊まれる(入院)できる病院。
- ・ 出産後の家事・育児相談ができる環境。
- ・ 出産後、自宅に戻る前にさらに2週間くらい身体を回復させるケア施設。
- ・ どの産院でも、産後の入院中だけは夜中寝かせてほしい(赤ちゃんを預かってほしい)。
- ・ 妊婦面談などの土日利用。できればオンラインで。
- ・ 男女両方を対象とした妊娠期における注意事項などの研修・電話相談窓口の設置。
- ・ 妊婦や乳幼児子育て世代向けの企業ブースを出展するようなイベント。
- ・ 出産を控えた健診や出産をする際の不安に対する献身的なサポート。
- ・ パパ・ママ学級やマタニティヨガなどの土日実施、回数増。
- ・ 育児中の妻のサポートに関するサービス。
- ・ 旦那の立ち合いが難しい時代のため、旦那が自分の子どもと自覚するためのサポート。
- ・ 父親への意識づけの教室、親の手を借りなくても育てられるような知識の提供。
- ・ パパ・ママ学級、父親学級における妊娠中、出産、出産後のママの身体のダメージ、乳児育児のハードさの説明。第三者から父親に伝えてほしい。
- ・ 妊婦に対する各種サービスや品物が載ったカタログギフト。
- ・ ベビーカーの貸出。
- ・ 病院で健診時の上の子同伴可能や預かりサービス。
- ・ 第二子誕生に伴う第一子へのケアサポート。
- ・ 出生前診断、羊水検査、無痛分娩の補助。
- ・ 所得に関係のないサービスの享受(不妊治療など)。
- ・ 陣痛タクシー。
- ・ 気軽に相談できる助産師相談や、出産に関する手続きなどを一覧にした用紙の配布。
- ・ たまごクラブのようなわかりやすく内容がしっかりした育児書。
- ・ 出産費用や保育園入園など、一連の流れをまとめた冊子。
- ・ 父母問わず、育休取得に対して、区からの要請に近い内容での、会社への育休取得のお願い。
- ・ 妊娠後のロードマップや、それによる休職の金銭面を含むサポート。
- ・ 出産準備サービスとして葛飾区内で使えるサービス券(かつしかプレミアム商品券のようなもの)。
- ・ 区内鉄道駅のエレベーター、エスカレーターを設置。

## ●乳児親子向けのサポート・サービス

- ・ 一時預かり。(24 件)
- ・ 子育てひろばや児童館等でのイベント。(21 件)
- ・ 父親・母親学級など子育てに関する会。(16 件)
- ・ 育児相談窓口。(14 件)
- ・ 補助金、給付金などの経済的支援。(11 件)
- ・ 保育園、幼稚園等の入園相談・情報提供。(11 件)
- ・ 家事育児サポート、家事代行サービス。(10 件)
- ・ ベビーシッター費用補助。(10 件)
- ・ 子育てひろばや児童館等、子どもの遊び場の充実。(10 件)
- ・ 横のつながりをつくれる交流会。(10 件)
- ・ 保育施設の充実。(9 件)
- ・ 育児用品の支給・助成（おむつ代、ミルク代等）。(9 件)
- ・ ベビーマッサージ教室など親子で参加できる講座。(9 件)
- ・ 産後ケア。(7 件)
- ・ 病児保育。(5 件)
- ・ 駅や施設のバリアフリー化。(5 件)
- ・ 父親の育児参加の啓発。(4 件)
- ・ 保育料軽減、無償化。(4 件)
- ・ 親同士の情報交換・交流の場。(3 件)
- ・ 母親の心と身体のケア。(3 件)
- ・ ファミリー・サポート・センター。(2 件)
- ・ 孤立しないためのサポート。(2 件)
- ・ フリーマーケット、譲渡会などベビー用品の再利用。(2 件)
- ・ ベビー用品レンタル。(2 件)
- ・ 公園の充実（遊具含む）。(2 件)
- ・ 何のサポートがあるかわからない。(7 件)

(その他の主な意見)

- ・ 0 歳児を預かってママを寝させてくれるサービス。
- ・ 産褥期に赤ちゃんをあやしてもらっている間に最大 4 時間寝られるシッターサービス。
- ・ 子育てを温かい目で見てもらえるような環境づくりと、それに伴う親や保護者としての最低限のマナーの周知等。
- ・ 外出や買い物などが大変なため、その点でのサービスの充実。
- ・ 栄養バランスを考えた子ども向けのお弁当など、食事の販売サービス。
- ・ 乳児を育てている人がマッサージ等を受ける短時間でも子どもを預かってもらえる施設。
- ・ 電動自転車購入費補助。
- ・ 提携するベビー用品屋さんで使えるクーポン。
- ・ 児童館体験ツアー。
- ・ 無料のキッズスペースの新設。
- ・ カフェと児童館を合わせたような施設。
- ・ 3 歳以下の子ども専用の遊び場や公園。年齢によって時間帯を決めれば、ぶつかったり踏まれたりすることなく安心して遊ばせられる。

- ・ 土日でのイベント開催。
- ・ 企業主催の親子共々息抜きや刺激になるようなイベント。
- ・ 子どもが喜ぶ親子での触れ合い遊び方。
- ・ いつでも発達、発育などを見てくれたり学べる場所。
- ・ 絵本の読み聞かせや音楽を流して踊るなど、保育園や幼稚園でする内容を受けられるところ。
- ・ 保育園へ通っている子どもの一時保育の利用。
- ・ 大型スーパー内での一時預かり。
- ・ 一時保育の手続き改善（WEBでの空き時間確認・予約）。
- ・ 保育園に関する区からの説明会（書類の書き方等）や、各保育園の合同説明会。
- ・ 仕事復帰前の数か月の保育園のお試し入園。
- ・ 仕事をしながらでも乳児を預けられるような時間外施設の案内。
- ・ 夜間などの急な対応に関するサポートやサービスの拡充。
- ・ 健診・検診の助成。
- ・ 保育園・幼稚園から習い事先までの送り迎え。
- ・ 公共交通機関の子連れ優先車両の設置。
- ・ 安全な道路、歩道の整備。
- ・ ベビーカーを持ち歩いての公共移動がしやすい支援。
- ・ 男性トイレにおむつ交換スペースの設置。
- ・ 観光地周辺でのベビーカー無料貸出。
- ・ 児童館のバリアフリー化。
- ・ 歩道へのベビーカーラインの標示。
- ・ 養育費の支援。
- ・ 産後サポートや母乳外来の4か月以降のサポート。
- ・ 赤ちゃん訪問の回数増加。
- ・ 地域の子育てセンターや児童館のイベント情報の周知（メルマガなど）。
- ・ 一時預かりや遊び場、子連れでも利用できる飲食店についての情報提供。
- ・ 出産後の申請書関係のご案内や作成代行。
- ・ 男性が乳児のおむつ替えをするのに多機能トイレなどがある施設の情報がわかるサイト。

### ● 幼児親子向けのサポート・サービス

- ・ 子育てひろばや児童館等でのイベント。(16件)
- ・ 補助金、給付金などの経済的支援。(15件)
- ・ 保育施設の充実。(11件)
- ・ 子育てひろばや児童館等、子どもの遊び場。(11件)
- ・ 育児相談窓口。(10件)
- ・ 音楽、体操、スポーツなどの親子教室。(9件)
- ・ 保育園、幼稚園等の入園相談・情報提供。(8件)
- ・ 一時預かり。(7件)
- ・ 横のつながりをつくれる交流会。(7件)
- ・ 病児保育。(5件)
- ・ ベビーシッター費用補助。(5件)

- ・ 共働き家庭への支援。(4件)
- ・ 児童手当。(3件)
- ・ 家事育児サポート、家事代行サービス。(3件)
- ・ 電動自転車購入費補助。(3件)
- ・ 保育料軽減、無償化。(3件)
- ・ フリーマーケット、譲渡会などベビー用品の再利用。(3件)
- ・ 母親学級、父親学級など子育てに関する会。(3件)
- ・ 習い事などの情報提供。(3件)
- ・ 進学情報、小学校進学に向けてのアドバイス。(3件)
- ・ 育児用品の支給・助成(おむつ代、ミルク代等)。(2件)
- ・ 一時預かりや遊び場、子連れでも利用できる飲食店についての情報提供。(2件)
- ・ ファミリー・サポート・センター。(2件)
- ・ 公園の充実(遊具含む)。(2件)
- ・ 子連れでの入りやすさ、ベビーチェアの有無など、飲食店サービスの充実化。(2件)
- ・ 何のサポートがあるかわからない。(6件)

(その他の主な意見)

- ・ 子育て相談窓口。以前LINEでできる子育て相談室があったが、とても満足度が高かった。
- ・ ベビーシッターが、予約なしでほしいときに来てくれるシステム。
- ・ 未就学児がいる場合は、妊娠中から産後の遊び相手のサービス。
- ・ 子どもの年齢別交流会。タカラトミーとのコラボイベント。
- ・ 知育的なものや子どものためになるような教室やイベント、施設等。
- ・ 子育て世代とそれ以外の世代との交流、地域のイベント。ご近所付き合いがないので、子育てを終えた世代の方とお話もしたい、もっと大人と関わりたい。
- ・ 土日に父子で楽しめるような体験。その間に溜まった家事が消化できてありがたい。
- ・ 幼児が遊べる民間のスペースの誘致。
- ・ 幼児向け遊戯施設の無償化。
- ・ 無料のキッズスペースの新設。
- ・ お金をかけずに遊ぶ場所や学ぶ場所をもっと増やしてほしい。内容ももうちょっと工夫して、子どもが集まるようにしたり、他年齢と関わって子どもは上の人間に色々教わる、大きい子どもや大人たちが子どもたちに教えるとともに遊ぶ場所をつくったりして、大人も子どもから何かを得たり大切にできる環境をつくっていただきたい。
- ・ 親子で遊べるプールや施設。
- ・ おむつが外れていなくても水遊びできる施設。
- ・ 自転車教室。
- ・ 午前中は乳児、午後は小学生という雰囲気がある児童館等で、幼稚園児が降園後の時間に遊べる場の開放。
- ・ 室内で走り回れるスペースの開放(児童館よりも広く、体育館程度の広さ)。
- ・ 室内遊び場(ボールプールなど)。公園などは、小学生くらいの大きいお子さんが走り回ったり、ボール遊びをされていて、安心して幼児を遊ばせられないことも多い。
- ・ 子育てセンター、図書館、児童館などの宣伝のようなお知らせがメールやLINEなどの友達フォロー機能で簡単に閲覧できると便利だし、行ってみたいくなる。
- ・ 公園マップとか子どもと入れるお店や幼児向けの食事があるお店の一覧。
- ・ 授乳室やおむつ替えのできる部屋の増設及び幼児向け施設の充実。

- ・ 公的な施設には、男女問わず使用可能なおむつ替えスペースの設置。
- ・ 安全な道路、歩道の整備。
- ・ 発達相談、療育施設の受入れ人数の増加。ペアレントトレーニング。
- ・ 未就学児の発達や成長の段階を知ることのできる教室。
- ・ 障害児の出産後も継続して使えるサポート・サービス。
- ・ 保育園の手続きや助成などの説明を受ける機会が役所に行かなくてもあると嬉しかった。
- ・ 共働きの家庭でなくても保育園などに預けられる制度。
- ・ 保育園以外の一時預かりサービス。
- ・ 学童保育の拡充。
- ・ 無料健康診断。
- ・ 夜間医療、健康相談。
- ・ 夜間などの急な対応に関するサポートやサービスの拡充。
- ・ 医療費、教育費の手厚いサポート。

### ●その他（主なもの）

- ・ どのようなサポート、サービスがあるのか現状わかっていない。（9件）
- ・ 三人乗り電動自転車の補助金。（2件）
- ・ 子育て世帯への店舗での割引。（2件）
- ・ ひとり親世代のサポート。
- ・ パパ同士の相談コミュニティ。
- ・ 家事代行や休日の託児サービス。
- ・ 男性が育休を取得しやすくするように、欠員の補充（人員の派遣制度）。
- ・ 3回目の帝王切開だと、医療保険が出ないので経済的にも苦しくなる。
- ・ 子どもの医療費等の無料化。
- ・ 流産となった人への心のケアに関する事業の実施（相談窓口の設置等）。
- ・ 気軽に子どもを預けられる場所。
- ・ 小学校以上の発達障害支援。
- ・ 妊娠中や幼児向けのサービスは充実していると思うので、その先（小学生以上対象）の支援。
- ・ 流山市で実施している施策で、駅で子どもを預け、保育園まで送迎してくれるサービス。
- ・ 実家が遠方であり預け先に困ることがあるので、トワイライト・ステイなど必要時に利用できるサービスがあるのは助かる。
- ・ 兵庫県明石市を例とした、子育てに関するサポートの拡充。駅前に子ども用の施設もあり、子ども中心の設計になっています。
- ・ 教育格差をなくすため、習い事クーポンなどをつくってほしい。
- ・ 塾や大学など学業の費用に対するサポート。家庭の収入と子どもの学歴や収入には明白な相関関係があるため、子どもの学業に対し、お金を気にせずサポートできるようにしてほしい。
- ・ 以前は、妊娠中にPASMOカードと5,000円をいただき、出産後におもちゃとかの商品券が届いたのは非常に良かった。コロナ禍ということもあり、実際の妊婦や子育てのセミナーよりも、商品券等を充実させた方が良いと思います。

設問7 全国的な課題となっている少子化に対応するためには、区としてどんなサービスが必要であると思いますか。

分類回答	件数
1. 結婚・妊娠・出産について	387
2. 子どもの医療について	44
3. 経済的支援について	460
4. 子育て支援サービスについて	295
5. 教育・保育について	456
6. 子育て環境について	126
7. 仕事と子育てについて	64
8. その他	73
合計	1,905

## 【分類別の主な意見】

### 1 結婚・妊娠・出産について

- ・ 出産一時金増額等、出産費用補助。(160件)
- ・ 妊婦健診・検査費用助成の拡充。(56件)
- ・ 不妊治療助成の拡充。(40件)
- ・ 出産祝い金の支給。(25件)
- ・ 産後ケアの充実。(16件)
- ・ お見合い、出会いの場等の提供(婚活サービス、街コン等)。(12件)
- ・ 妊産婦の移動費用の補助(タクシー、バス)。(12件)
- ・ 婚活に対する支援・助成。(10件)
- ・ 出産前後の上の子のサポート。(9件)
- ・ 不妊治療専門院の増加。(7件)
- ・ 無通分娩の助成。(5件)
- ・ 妊娠・出産期の医療費助成。(3件)

(その他の主な意見)

- ・ 妊娠中も、母子ともに異常のない健康な妊娠経過でしたら補助券でまかなえますが、つわりや切迫早産、何らかの体調不良による服薬など、お金がかかりがちです。
- ・ 出産費用(自己負担額)や子育てする過程での出費が高いため、次の出産まで計画的に貯蓄する必要がある。年齢のことを考えると一人育てるのに手一杯。
- ・ 出産に関連する費用がかかりすぎる。妊娠前からの通院費用、出産、出産後の費用も含めて…区のサービスでどうこうなるものじゃないかもしれないが、これで本当にもっと産んでほしいと思っているのか、はなはだ疑問だ。
- ・ 既婚・未婚に関わらず、妊娠・出産費用のサポートや資金的助成サービスがあることの周知。

- ・ 第一子の妊娠時、健診に思った以上にお金がかかることに驚きました。私は妊娠時のつわりも酷かったので、休職もしました。妊娠中の補助や助成金をもう少し増額していただきたい。
- ・ まずは、妊娠～出産までの費用を軽減することに特化した方がいいかと思います。
- ・ 私自身、妊娠中の生活が不安で二人目妊娠に踏み切れずにいます。妊娠中の生活の不安が解消されるようなサービスがあるととても心強いです。
- ・ 二人目以降の不妊治療にトライしやすくするために、不妊治療中に子どもを預けられるサービス。
- ・ 不妊治療が必要な立場から考えると、時間とコスト、また精神的な不安が大きい。時間に関しては、なかなか休日での調整も難しいときがあり、仕事との両立が難しい。職場との話もシビアな部分が多いので、この辺りを調整いただくスペシャリストがいるといいと思う。
- ・ 不妊治療、産後、子育てのサポート。積極的に参加できない方やサービスがあっても認知されていないこともあると思うので、孤立させないようにお願いしたいです。
- ・ 産後ケアが使える期間を宿泊、デイケア含め1年間にする。今の子どもを出産したときに生後5か月まで子どもが入院しており、子どもが自宅に戻った時には産後ケアが使えなくなっていた。
- ・ 産婦人科や小児科に特化した紹介サイトの開設。
- ・ つわりをはじめ、妊娠中・産後の家事を軽減するようなもの。
- ・ 子どもを産んでからだけでなく、産むまでのサポートと手当。
- ・ 出産にかかるお金だけでなく、その先を見据えたフォロー。
- ・ 不妊治療が保険適用となりましたので、受診への抵抗感をなくすような、もっと積極的な受診を促進する働きかけがあってもいいのではないかと思います。
- ・ コロナ禍での妊娠・出産はとても心配だった。相談できる体制を整える、コロナに罹患した妊婦を受入れられる病院の体制を整えるなどのサポートがあると嬉しい。
- ・ 産後ママのサポート・サービスが、出産費用手続きの申請をするのと同じくらい簡易に受けられることが普及すれば理想です。
- ・ 不妊治療中に減る収入の助成。
- ・ 妊娠時の健診は休業補償してほしい。妊婦健診は大切なので、補償があれば会社に伝えやすい。
- ・ 出産のための費用（通院費）を保険適用にするのは1つの手だと思う。
- ・ 「出産おつかれさま給付」とかがあると女性の満足度は高くなると思う。
- ・ 妊娠・出産時の必需品の支援。
- ・ 骨盤や整体、乳房ケアの出張サービス。
- ・ 産婦人科の質の向上。院内の清潔、個室や病院食の質向上、気軽に通えるように費用の割引など。
- ・ 病院と助産院による助成の差をなくす。母親がどこで子どもを産もうと、一律平等にサポートが受けられることを望みます。
- ・ 計画的にお産ができる病院をもっと増やしてほしい。共働きや上に子どもがいる場合、男性の育休普及のためにも計画的に出産ができると凄く助かる。また、金銭面でも補助がもう少しあると助かる。

## 2 子どもの医療について

- ・ 子どもの医療費無償化。(32件)
- ・ 産婦人科・小児科等医療機関の設置。(6件)
- ・ 夜間・休日診療医院の増加。(3件)
- ・ 予防接種の補助。(2件)
- ・ 子どもの医療相談。(1件)

## 3 経済的支援について

- ・ 子育て世帯に対する経済的支援（給付金など何らかの金銭補助）。(204件)
- ・ 児童手当の増額、期間延長。(67件)
- ・ 各種手当の所得制限撤廃。(61件)
- ・ 子育て世帯の税制優遇。(45件)
- ・ 多子世帯への金銭的サポート。(20件)
- ・ 子ども商品券やクーポン券の発行。(12件)
- ・ 住宅補助、家賃補助、住居斡旋、転居費用補助。(11件)
- ・ 一時的ではない継続的な補助金支給。(4件)
- ・ 賃金・所得の向上。(4件)
- ・ 区内の施設やお店での割引。(3件)
- ・ 出産・進級でのお祝い金。(2件)

(その他の主な意見)

- ・ 経済的に本当に苦しいです。二人目がほしくても産めません。経済的に支援いただけると嬉しいですが、収入制限があり、本当に底辺の人しか対象とならないため、そこも緩和してほしいです。これは国に対する要望かもしれません。今後も期待しております。
- ・ 少子化と嘆いていますが、一人の子どもが成長するまで思っていない金額がかかったり、年収が400万前後の家庭は裕福でもなければ貧乏でもないですが、結局学校の助成金控除は受けられない。出産までの援助やその後の助成金も含めて、経済的に足りません。学校からも教材費や学校の旅行代金等諸々あるので、年収によっての割り振り方がもう少し広ければ助かるのにと思ったりもします。
- ・ 経済的な不安がある。小学校、幼稚園でかかる費用もあるが、水道代や下水道代も子どもが増えると負担が大きくなる。
- ・ 毎月子ども一人当たり1万円を積立してくれる制度。18歳になったら、それをもらえる。貧困で進学できない子もいるため、所得関係なく本人にお金が渡るように。
- ・ 出産・育児にかかるお金と行政から出る補助・サービスに乖離を感じます。少しでも子どもを産んでも良いかなと思えるように、まずは金額面での不安を解消してほしい。
- ・ 最低限食べていけるだけの生活費の補助等。
- ・ 高校卒業あたりまで、長期に渡った子育てに関わる費用の負担を減らしていただきたいです。
- ・ 国として出産一時金の増額が検討されているが、それでは産婦人科が出産費用を高くしたら意味がないと思う。そうではなく、出産後の育児対応を考えてほしい。
- ・ 母子家庭や父子家庭、お子さんがいる家庭にもっと支援や手当をしてほしい。所得で手当を決められても、手取りは凄く少ない場合もある。



- ・ 子どもを持つ家庭へのサポートや金銭的支援が必要だと思います。医療費、保育費、教育費以外にも、日本の昔からの文化である七五三や成人式等のお祝い事の際にも支援。給付金等があればなお安心。
- ・ 出産時にだけお金がかかるわけではなく、産まれた後の約 20 年くらいにお金がかかるので、中学生頃までは商業施設等の割引などもっと充実していればいいと思う。産むときだけの不安解消だけではなく、子育てという点で長い目で見て「安心して余裕を持てる」という、子育てに対しての明るい希望や子育ての自信を持つことができれば、少しでも少子化対策になるのではないかなと思います。
- ・ お金を支給するのはいいことだと思いますが、親が使ってしまう家庭もあるのでしっかり子どもたちに届くよう現物支給がいいです。
- ・ こども商品券の支給など限られた支援ではなく、産後育児中だからこそ現金支給などどこでも使える方がいい。
- ・ 18 歳までの子がいる世帯はディズニーランドの利用が年 2 回まで無料になるなど、お得と感じる制度。
- ・ 地域振興券的なものでも良いので養育費のサポート。
- ・ 葛飾区内でこども商品券が使えるお店が限られているので、もっとたくさん使えるお店を増やしてほしいです。
- ・ 子どもを希望する世帯への給付金等。
- ・ 子どもがいても現在の生活レベルが下がらないような補償やサービス。
- ・ ひとり親家庭への手厚い補償、養育費及び婚姻費用を確実に受取るための法改正。
- ・ 区の平均的な公共料金の金額まで補助。
- ・ 貧困家庭への経済的支援や、親の精神面ケアは必要と感じる。
- ・ 現在、東京都の赤ちゃんファースト事業で出産後に 10 万円分のポイントがもらえるが、金額は少なくともそういう制度があると嬉しい。産前に子育てについての相談をすると、区から PASM0 とおもちゃ券がもらえる制度はとても嬉しかった。
- ・ コロナ禍で東京都がやっていた、出産祝いとして家事を助ける家電などがもらえるサービスや、渋谷区や文京区などで実施している育児パッケージがあったら助かる。
- ・ お金の問題が大きいと思います。働けなくなるし、児童手当や育児手当だけでは先行きが見えなくなります。
- ・ 育児中の時短勤務での収入減少に対する何らかのフォローなど金銭的な面でサポート。
- ・ 「家庭の経済を支える何か」が必要だと思います。私は現在妊活していますが、妊活する前は「もう少し余裕が持てるまで妊活するのはやめよう」と夫婦で話していました。

#### 4 子育て支援サービスについて

- ・ 育児用品の支給・助成（おむつ代、お尻拭き代、ミルク代等）。(55 件)
- ・ ベビーシッター制度の拡充。(29 件)
- ・ 気軽に子どもを預けられるサービス。(25 件)
- ・ 病児・病後児保育施設の充実。(22 件)
- ・ 家事代行・サポートの充実。(20 件)
- ・ 産後の母親サポート体制の強化（孤立防止、メンタルケア）。(19 件)
- ・ 一時預かりの充実（乳児受入れ、予約方法）。(18 件)
- ・ 区として実施しているサポートやサービスの広報・周知強化。(17 件)

- ・ 誰もがいつでも利用できる育児相談（窓口、WEB、LINE 等）。（12 件）
- ・ 電動自転車購入費助成（一人目から）。（8 件）
- ・ 食事・食材の宅配サービス。（5 件）
- ・ 手続きの簡素化（ファミリー・サポート・センター、一時預かり等）。（5 件）
- ・ 育児用品レンタル（ベビーカー、ベビーベッド等）。（4 件）
- ・ 親の急病時などでの即時預かりが可能なシステム。（4 件）
- ・ 障害児受入れ体制の強化。（4 件）
- ・ 育児用品のリサイクル。（3 件）
- ・ 実家が遠く周囲に頼ることができない人向けのサポート。（2 件）
- ・ ファミリー・サポート・センターの充実。（2 件）
- ・ マタニティパスの金額増加。（2 件）

（その他の主な意見）

- ・ 気にかけてくれる、親身になってくれる、気軽に相談できる人がいてほしい。
- ・ ゆりかご面談のように子育てに関する情報を提供する場を設けて、それに参加する毎に補助を出すと良いと思います。子育てに対して本気で悩み、取り組んでいる夫婦に適切な情報と金銭的補助をすることで効率的に対策ができます。
- ・ 夏休みなど、長期休暇期間中の一時預かりサービスの拡充。
- ・ 産後 1 年間誰でも泊まれる助産師さんもいる施設とかがあれば、夜泣きのときも預けられて自分は睡眠が取れる。
- ・ 0 歳～3 歳は体力的にも精神的にも大変なことが多い割に、仕事・育児・家事と母親への負担が大きすぎます。夜も起きて授乳したり、夜泣きで起きてあやして、昼間は本当に仕事が大変でした。出産一時金の増額ではなく、この期間の手当の増額や一時預かり支援をしていただきたいです。
- ・ 出産後のアフターフォロー。例えば、時間単位の子ども預かりチケットのようなものを区で配布してほしい。預け先は保育園や児童館など、近所で気軽に選べて、気軽に子どもを預けたい。特に、子どもが二人以上いると、近くに両親がいるなど子育てのサポートがないと育てるのが非常に難しい。
- ・ 夜間や早朝に病児保育を即予約できる、安心して預けられるようなサービスを考えてほしいです。
- ・ 現状、出産後ママの一番の壁はワンオペ育児だと思っているので、それが解消されるためにはプロの人手確保が必要。ベビーシッターは私自身も頼むか何度も考えたが、利用料金が高いサービスのため断念した。出産で無収入・出費多数の状態でも個人家庭がベビーシッター代まで出すのはかなり難しいです。
- ・ いろいろな働き方のある時代、園や学校のお迎えが難しいのも事実です。代わりにサポートしてくれる方がいると助かります。今もあるのは知っていますが、どうしても敷居が高いのです。そして、もっともっと多くの方にそのようなサービスがあることを周知してほしいです。事前に何人かのそういった方と面識があれば頼むことはできますし、そういった面識のある方とのマッチングサービスのようなものでもあれば「確実」に（これがとても大事です）お迎えに行ってもらえる。
- ・ 月一程度でいいですが、任意の日に子育てヘルパーの派遣。
- ・ 赤ちゃんを育てるのに人手不足で一歩踏み出せないこともあるので、無料で一週間ほど手伝いに来てくれる人がいると助かると思う。
- ・ 共働きのため、保育園のない日も見てもらえる場所が増えると嬉しい。
- ・ 働いていないお母さんでも毎日子どもと一緒にではできないことがあるので、半日保育などがあるといいなと思う。

- ・ 療育についての情報発信が足りない。
- ・ 保育園等の子育て支援サービスの父子参加率の向上。
- ・ 子が産まれる前のパパ学級は義務へ。しかも複数回。意識づけを個人に任せない、各家庭に任せない。区が介入。ママにパパを教育させない。
- ・ 節目の健診のたびに保健センターに行くのが少し大変だった。可能なら、健診や発達相談などが、土日に対応いただけると嬉しい。
- ・ 出産した際に必要な物品などを支援してもらえるサービスがあるといい。
- ・ 東京都の赤ちゃんファーストのような物資支援。
- ・ 買い物や外食時に割引されるなど。
- ・ 現在東京都で実施している子育て応援パスポートの内容をもっと充実させてほしいです。
- ・ 葛飾区内で使える子どもパス（電車やバスが区内無料など）。
- ・ 共働き世帯が参加できる土曜日の行事開催。共働きのため、児童館などでの行事に参加できない。
- ・ 日曜日に開いている児童館が少ない。日曜日でも利用できるようにしてほしい。
- ・ 産後の助産師訪問だけでなく、未就学児を対象とした訪問型のサポートがあるといいなと思う。
- ・ 兄弟児の健診、入学卒業式、その他公立・民間に関わらず、子連れで受けられる手続きやサービスがあれば、現状が大変楽になると思います。
- ・ 他の区との差別化や、子育てが助かるようなサポートだと思います。現状も、いろいろなサービスがありとても助かっています。一時預かりベビーシッター利用支援事業も拡大し、とても利用しやすいです。共働きの親御さんをサポートするような助成がもっとあると、もう一人持っても良いかなと思ってくれる人は多いと思います。
- ・ 子ども一人当たりで受けられるサービスを増やす、または子ども一人当たりの補助を増やす。
- ・ おむつを配送しながら様子を見るといった孤独にしないサポート。
- ・ 小さい子どもだけではなく、高校生くらいの年齢まで支援の対象を広げてほしい。
- ・ 中学生までの補助ではなく、その先の補助もほしいです。仕事をしていると子どもの食事や面倒も見きれないところもあるので、子ども食堂がもっと近くにあったり、緊急時に預かってもらえるところや、勉強を教えてくれるところなども充実してほしいです。妊娠時は塞ぎ込んだりしがちで外に出られなかったもので、健診と同時にカウンセリングや先の展望を教えてくれたり、交流の場もあったら安心感も増えたかなと思います。
- ・ 子育てする際に絶対的に必要となる費用については補助があると良い。昭和と異なり、共働きをしないと子育てができない家庭が多いと感じるが、制度が追いついていないと思います。
- ・ 宿題の指導、プログラムなど、子どもの長期休み時のサポートがほしい。
- ・ 特に共働き家庭を対象とした、家庭に合わせた子育てプランを具体的に策定できるような支援（プランを立てることへの支援、金銭的な支援）。

## 5 教育・保育について

- ・ 教育費の支援・無償化（給食費、教材費、学用品補助含む）。(106件)
- ・ 保育施設の拡充。(77件)
- ・ 保育施設・幼稚園の無償化または利用料軽減。(65件)

- ・ 学童保育の充実（施設拡充、時間拡大）。(40 件)
- ・ 保育人材の確保、処遇改善。(26 件)
- ・ 誰でも入所可能な保育制度。(26 件)
- ・ 大学進学費用の補助・無償化（入学金、授業料、試験料等）。(22 件)
- ・ 待機児童ゼロ。(21 件)
- ・ 保育所施設等における長時間の預かり。(9 件)
- ・ 保育施設への送迎サービス（バス送迎、送迎ステーション等）。(9 件)
- ・ 塾・習い事等への補助。(9 件)
- ・ 教育の質・学力の向上。(8 件)
- ・ 奨学金、経済的支援など進学のためのサポート。(5 件)
- ・ 保育施設の予約入園枠の拡充。(2 件)
- ・ 預かり保育の補助増額。(2 件)
- ・ 認可外保育施設利用時の補助金支給。(2 件)
- ・ 保育施設・学童における申込・時間延長の簡素化。(2 件)

(その他の主な意見)

- ・ 駅前子どもを柔軟に夜遅くまで預かってくれる保育施設が必要。
- ・ かなり改善された印象なので、あくまで欲張りな意見ですが、新しく子を持っても、保育施設にさらに簡便、確実に預けられる安心感があると良いと思います。
- ・ 以前、通院するために休日保育を利用しようと予約日の朝一番に電話をしたが、すでに空きがなかったため、休日保育の定員を増やしてほしい。
- ・ 認定こども園の拡大。
- ・ 共働きの親が多いので、仕事に行っている間、安心して子どもを預けられる環境整備。
- ・ 子どもたちに良い教育を与えてあげたいが、近くにいい習い事や学校がなく、しかも非常に費用が高く、連れて行くにしても仕事を休まないと行けない。専業主婦や幼稚園に通える環境の人たちだけが受けられる特典のようでとても悲しい。幼稚園のような体験をもっと保育園でもさせてほしい。プロのベビーシッターのサービスを受けられるように、金額面やアクセスのしやすさをサポートしてほしい。
- ・ 保育園について、里帰り出産中は欠席扱いで、空いた席は一時保育などの枠に切り替えるなどして籍を置き続けられると、第二子出産のハードルがかなり下がると思います。
- ・ 産休中の保育園の預かり時間を融通してほしい。妊婦への負担となるか、パートナーが時短でお迎えをする必要がある。
- ・ 早生まれの場合の保育園への早期特別入園。
- ・ 療育機関に通園するために保育園を休む日は保育料を減額する。
- ・ 他区の保育園に預けようとする指数が減点となるため、近所（他区）の保育園を選択肢に入れにくい状況であった。対象地域を限定し要件緩和すれば、保育園への預けやすさが向上し、少子化対応に寄与すると考えられる。
- ・ 3歳以下も預かってもらえる幼稚園。
- ・ 保育施設に関する情報提供の充実。
- ・ 複数事業者による大規模説明会など、保育園及び幼稚園幹旋や相談会の拡充。
- ・ 保育施設の IT 活用促進。雑多な事務作業等を簡略化でき、保育士、両親ともに保育の本質たる「子どもと向き合うこと」に時間を割くことができるようになる。また、外国出身の家庭においても、例えばアプリで保育所からの連絡事項が自動翻訳される機能などがあれば、負担を軽減できると考えられる。

- ・ 病児保育や病後児保育に葛飾区が真摯に取り組んでいることを存じた上での回答で大変恐縮ですが、「熱はないが咳や鼻水が出る風邪で園に通わせにくい」程度の際の受け皿があると大変助かります。病後児は診断書が必要等でなかなかハードルが高く、病児ともなると予約や距離の面で厳しい場面が多いのが働く上で障害になっています。
- ・ 中高大学生に対して、所得制限なしに平等な教育設備があってほしい。金銭的サポートも含めて。
- ・ 働いても十分に子どもを育てていける制度が必要。特に小学校から上に関しては、学校側と就業者との感覚の乖離が凄い。何でもかんでもボランティア精神では今後立ち行かなくなる。
- ・ 希望者が希望するところで学べる施設。
- ・ 学童利用するほどではないけれど、わくわくチャレンジ広場は学校によって1年生は利用できない。かと言って、お留守番もこのご時世、災害や事件等、万が一もあるので、できればさせたくないと思っているのですが、どうしても幼稚園との兼ね合いで下校時間が重なることがあります。子どもの成長の違いや家庭の環境によって、抱える問題は異なるとは思いますが、長い目で見て、小学校低学年に対する環境がもう少し変わればありがたいと期待しています。
- ・ 学童は保育園と違って、65歳以上の祖父母と同居していると通わせられない。祖父母も病院に通院したり、別のところに住んでいる孫の世話に出かけたりと忙しいのに、就労以外の理由だと預かってもらえない。また、学童にも定員があり、3年生になると優先順位が下がり、学童に入りたくても入れない現状がある。わくわくチャレンジ広場も週一日しかやっていない。学校以外でも良いので、子どもを見てもらえる環境を増やしてほしい。
- ・ 子どもが小学生に上がり働きづらさを実感しています。共働きでも親の帰宅時までや、長期休み等に安心できる支援があればいいなと思います。
- ・ 学校で区立図書館の本の予約や貸出・返却ができると嬉しいです。大きな産院もあり公園やトイレも綺麗に整備されている葛飾区は子育てしやすいです。
- ・ 公立の学校教師には定期的に小児心理を学んでほしい。虐める側を庇護する例が多い。教師に教育以外の雑務が多く、心穏やかに働けていないのも大きな原因だと考える。お金をばらまくのではなく、子どもを取り巻く環境改善へ尽力していただきたい。
- ・ 発達障害の子どもが増えているので、支援施設を増やしてほしい。

## 6 子育て環境について

- ・ 子どものための施設、遊び場、学び場の拡充。(28件)
- ・ 安全に遊べる公園の整備。(18件)
- ・ 地域で子どもを育てる雰囲気・体制づくり。(10件)
- ・ 安全な歩道の整備。(9件)
- ・ 親同士の情報交換・交流の場(子育てコミュニティの作成)。(7件)
- ・ 駅や施設へのエレベーターの設置等バリアフリー化。(6件)
- ・ 子育てする親に向けたイベントの開催。(4件)
- ・ 子育ての楽しさを体験してもらう機会の創出。(3件)
- ・ 子ども向けイベントの拡充。(3件)
- ・ 親子で使える施設の無料化。(3件)
- ・ 子どもが遊べる大型施設の誘致。(2件)

(その他の主な意見)

- ・ 子どもがいても働きやすい環境、場所づくり。
- ・ 子どもが住みやすい環境にしてほしい。
- ・ おもちゃシェアリングサービス。
- ・ お母さんがリフレッシュしやすい場所がほしい。
- ・ 家の近くに子育てサロンや保育園があると便利だなと思っています。
- ・ オフィス街での託児所等の設置。
- ・ ショッピングセンターに併設した託児サービス。
- ・ 子どもを連れて行きやすいカフェなどがもっと増えてほしい。
- ・ 小学生までは無料などの飲食店やテーマパークなどがあると嬉しい。
- ・ 離乳食持ち込み OK のレストランや、ベビーカー入店可能なお店がもっとたくさんあればと思う。欲を言えばいろいろな施設にキッズスペースがほしい。
- ・ 小さい子を連れて子ども用品を買いに行くのに不便さを感じることもある。自転車で 30 分またはバスを乗り継いで 40~50 分必要など。交通網の見直しをしてほしい。
- ・ 地域全体で子どもの成長や子育てを見守ってくれる施設やお店などを増やしてほしい。困っているときに頼れたり、遊びに行ける場が増えたら子育てがしやすいと思います。
- ・ 企業誘致、有名大学や高校の誘致、駅前出店の誘致など。せつかく京成線の改修があるので、今しかないのでは。
- ・ 駅前の駐輪場が整備されていない。個人の駐輪場が多いが、子乗せ自転車お断りのところが多いので、困っている親は多いはず。
- ・ 街を変える。若者や働き盛りの年齢向けのお店、街づくりを意識するべき。
- ・ 小学校や学童の古い施設を新しくしてほしい。
- ・ 図書館の拡充。児童図書の実。
- ・ 兄弟で同じ時間帯に使用できる児童館など。コロナで仕方ないかもしれないが、今は就学前の子どもと小学生以上で利用の時間が分けられていて、子どもと一緒に連れて行けないので不便になってしまった。
- ・ 教育施設の充実。
- ・ 質の高い子育てを実現するサービスが必要。専門家やサークル活動による日常的な絵本の読み聞かせの充実、駅前の商業施設の充実など。
- ・ 学童保育以外に小学 4 年生以降の子どもたちが遊べる場所の確保。
- ・ 小学生以上が楽しく安全に過ごせる場所がない。公園ではボール遊びなども禁止。土日に遊ぶ場所も限られる。気軽にスポーツやワークショップ、学習ができる施設、またはスポットがほしい。
- ・ 葛飾区は公園が多く、緑もあり良いのですが商業施設が少ないと思います。亀有のアリオくらいでしょうか。若い世代や子育て世代は買い物や遊びなど 1 か所にまとまってくれていると、赤ちゃんや小さい子どもを連れて行くときに凄く助かります。
- ・ 夏休みなどの長期休暇中でも、子どもが気軽に遊んだり勉強したりできる環境は大事だと思う。子どもたちが遊べる環境が少ないので、子どもがいつでも出入りできるような環境があると良いと思う。
- ・ 理学療法士や言語聴覚士、作業療法士等、専門職のいる非定型発達の子どもの通える施設を増やす。
- ・ 人気公園での職員の配置。大きな公園の遊具で順番を守らない子どもがいても、親が注意するとトラブルの元になるため、注意ができない。
- ・ コロナ禍で集団健診がなかったり、児童館に行きづらかったり、遠方の親にも会えず、孤

立してしまう。区で SNS を利用する等、コミュニケーションツールをつくってほしい。

- ・ コロナ禍で家族以外と会えない状況が続き、引きこもりに限界を感じたので児童館を利用していましたが、情報交換の場としてとても助けられました。拡充していってもらえるとありがたいです。
- ・ 親や親族などの I ターン制度。夫婦ともに両親が遠方に住んでおり、育児を手伝ってくれる人がいない。実母に葛飾区に来てもらえれば…と何度か考えたことがあります。頼れる人が近くにいれば、あと一人子どもを授かりたいと思います。現実的には引越し費用、住居費等も高額になるので、支援があれば誘いやすい。
- ・ 子育てのしやすさ向上を図るとともに、子育てについて他自治体と差別化している点を PR し、子育て世帯の流入増加を目指して、さらなる子育てしやすさ向上の好循環に取り組む。
- ・ 23 区だけの家賃が低い、戸建が買える！などもっとアピールが必要。一時的な金銭サポートよりも、住環境の充実が希望です。
- ・ 子育て家庭優先の集合住宅、子どもの足音等への騒音をあまり気にしなくて良い環境など、住宅の支援。
- ・ 区の対策では厳しいが、国が本気で少子化を止めるのならば、家を若い夫婦に与えるのが良いと思う。一軒家がなければ二人以上子どもは産めない。集合住宅には限界がある。

## 7 仕事と子育てについて

- ・ 仕事と子育ての両立サポート。(11 件)
  - ・ 産休・育休を取りやすい環境づくり (企業への啓発、補助等)。(10 件)
  - ・ 男性の育児休業取得の推進。(8 件)
  - ・ 女性の社会復帰サポート。(8 件)
  - ・ 働きながらでも出産・育児ができる環境づくり。(6 件)
  - ・ 男性の育児参加への推進。(2 件)
  - ・ 産休・育休中の減収補填。(2 件)
- (その他の主な意見)
- ・ お金を稼ぐ(働く)ことへの支援。
  - ・ 子連れ可の資格取得のための講座、講習会。手が離れたときにすぐ働ける体制をつくれたら理想。
  - ・ 給付金だとありがたいが、財源的に限界があるので、親が働き続け、スキルアップしてワーク・ライフ・バランスを取ったり、賃金を上げる施策が必要だと思う。また、特に母親の就業には、偏見が邪魔をする側面もあると思うので啓発活動が必要と思う。
  - ・ 両親の労働時間の過多により、自由な時間が少ないと思われる。子育て世代の勤務時間の制限などを設けてほしい。
  - ・ リモートワーク、フルタイムではない勤務形態など、子育て中でも可能な働き方の拡充。
  - ・ 子育て世帯のフレックスタイム就業導入。
  - ・ 子どもが産まれても共働きでいたいと思っている夫婦だけではないと思うので、どちらかが働かなくても暮らしていけるような支援があると良いと思います。
  - ・ 子育て世帯に対して、分け隔てない支援をしてほしい。シングルマザー、シングルファザーは仕事と子育て、生活すべてを一人でこなします。現状の支援では、心にゆとりを

持った子育てをするのはとても厳しいです。いろいろなものが値上がる中、金銭的な支援が現状のままでは貧困の差が開くばかりです。継続的な現金の支援が難しいなら、子育て世帯でも無理のない正社員での働き口を区でも広げてほしいです。

- ・パートで働いていて産休等の理解が得られず、出産に伴い退職しなければならないような妊婦に対して、産後の助成金や長期的な経済援助をもっと幅広くする必要があると思います。貧富の差まではいかないが、新たに子どもをつくるほどの余裕はないが現実です。
- ・家の近くに職場があると嬉しい。子育てしやすいと思います。職場が増えると嬉しいです。
- ・通勤時間に2時間40分かかっていて、子どもが産まれて3歳まで時短勤務ができたとしてもほぼ意味がないので、葛飾区で転職も考えました。ですが、子どもを産みたいと思っている人を雇おうと思う会社なんてない。それでも大丈夫だよ、雇いたいよと言ってくれる会社が増えたり、求人を書いてもらえると助かるなと思います。
- ・非正規社員でも働きやすい環境をつくる。短時間勤務でも可能な求人を増やす。
- ・子どもが小さくても雇ってくれるような雇用。
- ・定期的にお仕事を紹介するようなイベントを開催したり、相談ができる場を増やす。
- ・未就学児や低学年の子どもを抱えて働ける場所が少なく、預け先も難しいため、経済的な理由もあり出産できない状況がある。
- ・葛飾区は充実していると思うが、補助金や育休の取りやすさなど、出産・育児サポートの体制がもっと良くなったらいいなと思います。

## 8 その他（主なもの）

- ・自分と子どもたちの将来が不安にならないようなサポートがほしい。
- ・若年世代は年収の低さによる金銭面の漠然とした不安があるため、子育てにかかる費用の低下とハードルを下げしてほしい。そのため、区での子育て積立金などを用意する。
- ・葛飾区は子育て世帯の方々を金銭、医療体制等全面的にサポートすることを伝え、世帯にとって葛飾区なら安心と思わせるようにしっかり数値化するべき。
- ・区としてのサービスには不満はありません。少子化に関しては、子どもの教育に熱心な家庭ほど、教育費が足りないのではないかと感じて子どもをつくることを躊躇しているのではないかと思います。出産費用に関して国負担の増額が言われていますが、厳しい言い方ですが、出産費用の負担もままならない家庭は子どもを持つ時期でないとも思います。現金ばらまきではなく、教育費、例えば三人目以降の大学費は国公立大学費用分程度は無料などの政策があれば、きちんと子どもの将来を考えて子育てをしている世帯が子どもをつくることに消極的ではなくなると思います。
- ・働いていても働いていなくても、金銭的にも精神的にも安心して子育てできる環境を整えてほしい。
- ・子どもたちのためを考えること以上に、親の気持ちに余裕を持たせるようなサービスがあると、みんながもっと前向きに育児ができるのではないかと思います。
- ・葛飾区にはいろんなサービスがあるなと個人的には思っています。ただ、私を含めて他のママたちの中には責任感が強かったり、完璧主義者の方もいて、そういったサービスの利用に抵抗のある方がいると思います。子どもをメインとするものより、子どもを産んだ、子育てを頑張っているママに焦点を合わせたサービスもほしいなと思いました。
- ・最初の子どもを持つことに不安になる人たちへのわかりやすい講座や、金銭面での対応。また、しつけや虐待の判別などの細かい部分でのフォローなども今後必要になってくる



と思われる。

- ・ 妊娠した時点から一人一人の経済状況や育児状況の把握（サポートの有無）等を行い、常に保健所、子ども家庭センター等とも連携できる状態にし、常に安心して子育てができる体制をつくっておく。
- ・ 助け合いの場。私は一人目を産んで、親のサポートが受けられたが、核家族が増えている中で、大変なときのサポートをしてくれる方の存在はとても大きいと思う。また、サポートがないと二人目は考えられないと感じた。結婚後～妊娠時から相談でき、妊娠前から出産後、子育てまで一貫したサポートがあるのが理想。
- ・ その場しのぎや一時的な援助ではなく、子どもが生まれてから独り立ちしていくまでの過程で継続して受けられるサービスを充実させてほしい。
- ・ 子どもへの政策や援助だけでなく、子育て中の親に直接関わる政策や援助があると良いなと思います。
- ・ 養子でもいいので、子どもを持つ方の金銭的負担が軽減される仕組みが必要。現状、子どもを持ちたいという強い願望がない限り、金銭的な負担と自身の時間を奪われるだけの環境となっている。
- ・ 出産費用や養育費の補助より、そもそもかかる金額を制限してほしい。補助があっても払う分が増えたら意味ない。
- ・ 今の子どもに対する政策も大事とは思いますが、今の現役世代に金銭的余裕ができない限り少子化は止まらないと思う。
- ・ 子どもの商品をもう少し安くしてほしい。
- ・ 必要なものを揃えてもらえれば安心感があると思います。ベビーカーやバウンサー、ベビーベッドとふとんなど、揃えるものはたくさんあります。
- ・ ふるさと納税の制度を利用し、葛飾区在住の方が葛飾区にふるさと納税するとおむつが届くなど、子育てグッズの返礼があると税収流出も防げていいかと思います。
- ・ 結婚して引っ越して来る人への引っ越し支援。
- ・ 公共施設の無償化。
- ・ 住居費の補填や、不動産の価格自体を下げしてほしい。都内は家が高く引っ越せない。お家が狭いと、子どもも増やせない。
- ・ そもそも結婚する人が少なくなっている。結婚したら、住まいの補助金が出るなり、さらに子どもを産めば、さらに補助金を出してくれるような仕組みをつくれればいいと思う。
- ・ 助成金や減額についての配布物、ホームページの説明がわかりにくく、結局電話問い合わせしなければならない。
- ・ 子育てのいろいろなサービスがあると思いますが、内容や利用の仕方がわからない、条件が難しい。
- ・ 助成金活用がわかりやすくなるようなWEBサイトの展開。
- ・ 育児に関する知識（妊娠～育児までのノウハウ）、使える制度などをまとめたサイトやガイドブックをつくる。
- ・ 情報収集が1箇所済むようにしてほしい。保育園は充実していると思う。ベビーシッターの助成はとてもいい取組だと思った。
- ・ 区のホームページがわかりにくく、子育て支援の情報収集がしにくい。直接電話をしないと詳しい情報が得られないのはいかがなものか。すべてネットで調べられて、予約などをできるようにしてほしい。
- ・ 災害、犯罪から子どもを守るための対策がいまいちわからないため、サービスがあるなら周知をしてほしいし、不審者などの情報に保護者がすぐ気づけるような連絡方法を取ってほしい。

- ・ 核家族が多く親が孤独になりやすい。出産して困ってから頼るという選択肢を取ることは難しい。妊娠中から相談できたり、オリエンテーリングを行うといった関係性をあらかじめ構築することが大事。そして、もうすでにある場合、知られていないということが問題。妊活をしようと思えるようにすることが大事であり、産婦人科で勧めるなどでは遅い。例えば結婚届を提出に来た段階で、子育て関連の案内を出したり、必要なら資料を渡す。そのときにもらわなかったとしても、渡す案内があったことを思い出し後日取りに来ることも考えられる。いかに取組の認知を、子どもをまだつくろうと思っていない人たちに拡大するかを考えてほしい。
- ・ 定期接種が増えたことや保育料の無償化、子どもが三人以上いる場合の給食費の援助などはとてもありがたいです。知らないと損することもあるので、申請手続きをしなくても、ちゃんと情報を得ていない人なども平等に援助が受けられるシステムになるといいなと思います。
- ・ 区内の子どもの習い事一覧ホームページがほしい。区で開催しているもの、クラブチームのものを一気に閲覧できるサイト。今はやりたい習い事をママ友つながりに紹介してもらわないと入会に辿り着けない習い事が多く、とても不便。
- ・ 紙での申請ではなくネットで完了できるなど、手続き関連に簡潔さ、手軽さがほしい。
- ・ 各種手当手続きの簡略化。例えば、出産一時金等申請後享受できるのではなく、出生届を提出した家庭に一律給付。手当があるのであれば区民は受動的に享受。
- ・ 他の区と差別化ができるような広告アピール。
- ・ 出産は数回経験しており、出産時の補助は充実していると感じた。子育ての制度は体験したことがないが、医療・教育などで他区や他県より突出した制度じゃないと少子化は改善していかないと思う。
- ・ 子どもを持ちたいと思うような啓発。
- ・ 少子化によるデメリットの周知。
- ・ なぜ少子化対策が必要なのかを、納得感のある形で国民に理解を得るのが必要だと思います。理解が得られれば、子どもをつくろうという意識が広がると思います。
- ・ そもそも、少子化対策を区が行う必要があるのか疑問です。経済停滞、女性の勤続年数の増加、家族観の変化などで少子化になるのは当然なのかと思いますが、少子化に歯止めをかけたい理由を教えてください。少子化によるデメリットを現子育て世代や次の世代に負わせるのではなく、すべての世代に負担を分散させるための仕組みづくりが必要ではないでしょうか。
- ・ これ以上子どもを増やさないという考えは、区のサービスが足りないからではない。これ以上手厚くなったからといって少子化が抑制されるとは思えない。
- ・ 日本のすべての自治体が兵庫県明石市を参考にしてほしいと感じている。幼児の子育ての手間を楽にするような支援（おむつの無料配達など）にとどまらず、貧困問題や養育費未払い問題への取組みなど、「子どもが大人になっていく過程」のすべてを自治体が支援する姿勢が見えることで、住民たちの意識も変わっていくと考えている。子ども自身が、境遇に関わらず、学問や文化の選択肢が広いほど、豊かな街であると思います。
- ・ 兵庫県明石市の事例が興味深いです。参考にされてはいかがでしょうか。決して「無償化」「お金配り」をしてほしいわけではないです。区として「子どもは宝」「未来への投資」だと重点的に考えていただいているという姿勢からの施策が、何より安心して子育てできる環境につながるのだと考えます。
- ・ 父親向けの悩み相談窓口があるといい。現在、第二子を希望しているが夫が金銭面や育児面で漠然とした不安を抱えており踏み出せずにいるため、父親経験者の話を聞ける場所があれば嬉しいと思った。
- ・ ママの1日をパパに体験してもらおう、もしくは見てもらい、日常的に家事・育児に積極的になってもらえるきっかけづくりをしてほしい。

- ・ ゆりかご面接、助産師の訪問などにおいて、お母さんのケアをするだけでなく、出産前や1歳児健診などの各タイミングで、父親と面談や電話確認などを必須として、子育てについてヒアリングしたり、子どもの現在の成長を見て今必要なケアを教えたりして、家事・育児のモチベーションや意識を上げてほしい。父親の育児参加については、各家庭での差も多く、外面は良くても家では寝ていたり、そういう人も多いと思うので、まだまだ足りないと思う。
- ・ 何でも女性がやるべきといった風潮や、子育てに完璧を求めるような同調圧力的な風潮をなくしていくようなアプローチ。
- ・ 女性が働くより、子どもを産んで育てていたほうが得であると思わない限り子どもは増えません。以前は女性の社会進出と少子化は反比例の関係でしたが、テレワークが盛んになってきた近年、その脱出の糸口も見えつつあります。
- ・ 葛飾区内にさまざまなベンチャー企業を誘致して、都心に就職しなくてもある程度稼げるようになれば、若者が区内に集まるのではないかと思います。
- ・ 起業、開業、移転支援。商業施設の他、起業の応援や、企業のオフィスが増えれば、葛飾区で働く人や住む人も増え、若い夫婦も増えるのではないのでしょうか？
- ・ 世帯主一人で家族を養える給料をもらえる国になってほしい。
- ・ 大学に入らなくてもしっかり安定した職につけるように企業を支援してほしい。
- ・ 仕事を休んでも（給与がなくても）子育てしやすいと思えるわかりやすい特典。
- ・ 高齢者向けの施策より、若者向けの施策に注力すること。若者が集まれば高齢者も自然と豊かになる。
- ・ 安心して二人も産める物資や教育、医療費負担のサービスが必要と感じる。葛飾区にはぜひ全国の先頭に立ち、子育てしやすい自治体になってほしいと願っております。
- ・ 子育てでお金がかかり始めるのは段々と大きくなってからだと思います。産まれたばかりはあまりかかりません。妊婦や産まれたばかりの子に対するサービスは充実してきたと思いますが、幼児から上はまだな気がします。
- ・ 福祉に従事する人への給料アップ等。
- ・ 区だけで解決できることではない。日本社会全体が子ども、子育て世帯に対して柔軟な考えを持って経済活動をする意識がなければ、絶対に課題解決はできないと思う。今の社会人（会社員）には子どもを持つ経済・精神・肉体的余裕を持つことが極めて困難だと思う。特に東京23区内において。
- ・ 超高齢化社会の問題と子育てサポートの問題を両方とも解決できるようなサービス。
- ・ 産んで2〜3歳くらいまでの支援を充実させるだけでなく、その先の支援にも力を入れてもらいたいです。物価の値上がりに加えて賃上げされない現状を考えると、未来に希望が持たず子どもを諦める家庭も少なからずあると思いますし、私の周りでもそういった理由から二人目、三人目を諦めている家庭はたくさんあります。
- ・ 二人目出産を前向きに考えることができるサービス。
- ・ 子どもがいると買い物が大変だったり、外食しにくかったりするのでストレスや疲れが溜まりやすく思う。特に、日中は母親が子どもを見ている家庭が多いので、日中に気軽に息抜きができるような取組を考えていただきたい。
- ・ 若者も住みやすい、住みたいと思える街づくり。
- ・ 悩みや意見の声がきちんと届き、検討してもらえる仕組み。
- ・ 赤ちゃんポストのような行き場のない母子を保護するような施設があったら、苦しんでいる母子も救われるのではと思う。
- ・ 子どもを育てていく家庭へのサポートだけでなく、妊娠・出産後にさまざまな事情により子育てが難しくなった家庭への積極的なサポート、必要であれば子どもの保護等も充実させることで誕生した命を守ることにつながると思います。親として責任をもって子ど

もを育てていくことは大前提ですが、それが難しく相談することもできず失われる命や、出産を諦める方もいると思うので、少子化の対策という観点から考えるならばそういったネガティブな面にも積極的に取り組むことで、子どもが望めない家庭と保護された子どもとのつながりや養子縁組につなげてポジティブなものにしていく必要があると思います。

- ・ 困っている人の中には、自治体にヘルプを求められない人がいる。余裕がなく行けない。何に困っているかさえ把握できていない。困り事はあるのにどこに何を相談したらいいかわからない。そこをすくいあげる区であると、安心して親世代は子を増やすのではと思う。困っている人を一人も見逃さないような区であってほしい。新たなサービスも良いがまずはそこから。
- ・ 産む・育てるという土台に立つにはお金のやりくりが重要で不安が大きいと考えているため、区のサービスとして今後の妊娠・出産・育児などを見越した家計管理のアドバイスをしていただけるようなサービスが必要と感じます。
- ・ 未婚世帯の実態調査や、子どものいない世帯の実態調査。
- ・ お金や仕事、生活すべてにおいて余裕が持てるようにしてほしい。
- ・ 産まれてきた子どもが平等に、教育、仕事、スポーツなどのさまざまな可能性を持てるシステムが必要だと思う。

### Ⅲ 調査結果の分析

本調査では、今後、子どもを持ちたいと思うかについて、「はい」の割合が49.1%と最も高くなっています。

さらに、子どもを持ちたいと考えている方に対して、現在の状況に近いものは、「現在、妊娠中・妊活中（不妊治療中を含む）である」の割合が37.6%と最も高く、次いで「産むのを控えているわけではないが、将来的には子を持ちたい」の割合が35.4%、「子を持ちたいと考えているが、事情により産むのを控えている」の割合が20.1%となっています。

本調査で課題となる、子を持ちたいと考えているが、事情により産むのを控えている方に対して、なぜ、産み控えているかについて、「経済的な不安」の割合が69.9%と最も高く、次いで「出産・子育てへの不安」の割合が40.4%、「今後の仕事（キャリア）への不安」の割合が31.6%となっています。

この質問について、子どもの有無別で見ると、『子どもがいる』では、第1位「経済的な不安」、第2位「出産・子育てへの不安」となっており、『子どもがいない』では、第1位「経済的な不安」、第2位「今後の仕事（キャリア）への不安」となっています。

■事情により産むのを控えている方の理由

単位：%

区分	回答者数（件）	今後の仕事（キャリア）への不安	住まいへの不安	経済的な不安	出産・子育てへの不安	社会情勢への不安	その他	無回答
全体	136	31.6	14.7	69.9	40.4	19.1	21.3	0.7
はい	101	27.7	13.9	71.3	44.6	17.8	20.8	1.0
いいえ	35	42.9	17.1	65.7	28.6	22.9	22.9	—

すべての方への質問で、区で実施している事業に関わらず、今後、利用してみたいサポート・サービスはあるかについて、「妊娠・出産に関するサポート・サービス」の割合が60.3%と最も高く、次いで「乳児親子向けのサポート・サービス」の割合が60.1%、「幼児親子向けのサポート・サービス」の割合が48.5%となっています。

特に、子を持ちたいと考えているが、事情により産むのを控えている方については、「乳児親子向けのサポート・サービス」の割合が45.9%と最も高く、次いで「妊娠・出産に関するサポート・サービス」の割合が43.0%、「幼児親子向けのサポート・サービス」の割合が40.7%となっており、全体の回答と比べると、下回っています。これは、子を持ちたいと考えているが、事情により産むのを控えている方に、特異性のあるニーズが見られないことがわかります。

■今後、利用してみたいサポート・サービス

単位：%

区分	回答者数 (件)	妊娠までのサポート・サービス	妊娠・出産に関するサポート・サービス	乳児親子向けのサポート・サービス	幼児親子向けのサポート・サービス	その他	無回答
全体	670	35.4	60.3	60.1	48.5	8.1	8.7
現在、妊娠中・妊活中(不妊治療中を含む)である	255	43.9	69.0	64.3	48.6	4.7	7.1
<u>子を持ちたいと考えているが、事情により産むのを控えている</u>	135	23.7	43.0	45.9	40.7	19.3	13.3
産むのを控えているわけではないが、将来的には子を持ちたい	240	35.4	65.4	66.7	55.0	2.9	5.8
その他	40	20.0	32.5	42.5	35.0	22.5	20.0

これらの調査結果から、「子を持ちたいと考えているが、事情により産むのを控えている」の割合が 20.1%に対する対策が急務であり、その障壁となっているのが、子どもの有無に関わらず「経済的な不安」です。

しかし、国や自治体などにおける出産・育児のためのさまざまな援助や手当の制度を設けられていることも否めません。妊婦健診などの助成、出産育児一時金(家族出産育児一時金)、出産手当金、育児休業給付金、児童手当、児童扶養手当などさまざまな制度です。

また、記述式の意見に、日本は海外の先進国と比べて、低所得者への補助は比較的多いが、中間層への補助がないと感じるという意見もありました。

区民のライフスタイルはさまざまです。区民のライフスタイルに寄り添った制度を周知していくことが必要です。